



bluebird SL

ラージダイアフラム・スタジオ・コンデンサー・マイクロフォン

をお買い上げ頂き、誠に有り難うございます。

この度はBlue MicrophonesのBluebird SLをお買い上げ頂き、誠に有り難うございます。Blueはスタジオ、ステージ、映画、ブロードキャストなどで幅広く使われている最高品位のマイクロフォンを作り続けています。Blueのマイクロフォンは最高級のビンテージマイクの伝統を踏襲しながら、最先端技術と革新的なエンジニアリング、ユニークなスタイルを追求しています。原音に忠実なサウンドで多彩な用途に対応するBluebird SLはあらゆる音源を鮮やかに再現します。独自に開発したカプセルをハンドチューニングされています。トランスフォーマーレス回路により高域を明瞭に拡張、滑らかな中域、リッチな低域を合わせ持ち、サウンドのディテールを鮮やかに蘇らせます。100Hzのハイパスフィルターと20dBの減衰パッドを装備したBluebird SLはメイン・ボーカルの収録に理想的、また弦楽器や管楽器は更に暖かみが加わり、ギター、ピアノ、パーカッションなどの楽器本来のトーンを忠実に再現します。

Bluebird SLをご使用になる前に本書をよくお読みください。Bluebird SLの機能や取り扱い方法、レコーディング

テクニック、ご使用の上での注意などを理解した上で本書に従いご使用になり、またより長くお使い頂くために、適切なお手入れを随時行ってください。

圧力傾度型ラージダイアフラム・コンデンサー・マイクロフォンBluebird SLのカプセルには、エッジターミネーション構造6ミクロンの純金蒸着マイラーフィルムが採用されています。同種のマイクロフォンと比較して、Bluebird SLは極めて優れた低セルフノイズ(>7.5dB)と高出力(+12dBV)を実現。またトランスフォーマーレスのクラスAアンプ回路により歪みやノイズを最小限に抑え、色づけない正確なシグナルが得られるため、原音に忠実な再生が可能になります。Bluebird SLのサウンドキャラクターは、ボーカル、ドラム、エレキギター、ピアノや、録音が難しいとされるサックス、フルートや弦楽器を含むほぼ全てのアコースティック楽器に理想的に使用できます。

Bluebird SLにはマイクを低周波の振動ノイズから保護するためのカスタムのショックマウントが付属します。



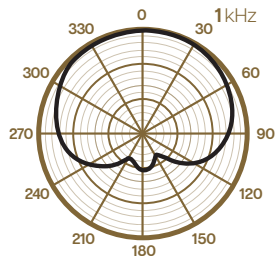
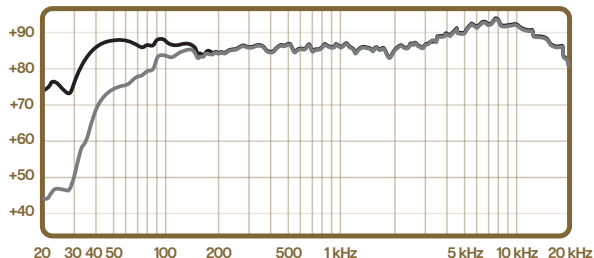
Bluebird SLは48Vのファンタム電源供給により動作し、主要なオーディオインターフェイス、ミキサー、マイクプリアンプで使用可能です。オーディオ部品の損傷を防ぎ最適な状態でお使い頂くために、まず以下の手順に従い使用環境を設定してください。

- マイクプリアンプのゲインを「オフ」またはゼロに設定します。
- ご使用になるDAWまたはミキシングコンソールの入力チャンネルをミュート（消音）します。
- バランスXLRマイクロフォンケーブルのメス側の端子をBluebird SLの出力端子に接続します。オス側の端子はマイクプリアンプの入力端子またはミキシングコンソールのバランス入力端子に接続します。
- ファンタム電源をオンにします。
- シグナルパスにミュート（消音）されている箇所があればミュートを解除し、マイクプリアンプのゲインを必用に応じて調節します。

Bluebird SLの極性は単一指向性で、カプセルの前面のシグナルを拾いオフアキシスのシグナルは排除されます。Bluebird SLをマイクスタンドに設置し、カプセルの前面（Blueロゴのある側）を音源に向けてからマイクの電源をオンにします。20dBの減衰パッドは高速トランジェント、高SPLの音源に対応しスネアドラム、タム、エレキギターアンプ、パワフルなボーカルなどの収音にも最適です。キックドラムやベースアンプなどの低音楽器を録音する場合を除いて、一般的には100Hzのハイパスフィルターを有効にして、振動や低周波によるランブルノイズを除去しレコーディングのヘッドルームを確保します。

BLUEBIRD SLの周波数特性と極性パターン

チャートでは周波数特性の例を紹介しています。マイクロフォンは用途により動作が大きく異なります。ルームアコースティック、音源からの距離、インストゥルメントのチューニング、マイクケーブリングなどを含むその他の多くの条件により変化します。また、アーティストやエンジニアはマイクの使用条件を考慮するところから音作りを始めます。



以下、Bluebird SLを適切に設置する上での基本的なマイキングのテクニックを解説します。

ボーカル



音楽業界では周知のことですが、ボーカリストはマイクロフォンの見た目の善し悪しでパフォーマンスに差が出る場合が多いため、Bluebird SLのような洗練された美しいデザインは重要なポイントです。で「ビッグ」でプレゼンスを最大に強調するには、声量に応じてマイクカプセルを唇から2.5-15センチの位置に設置します。マイクの正面を上向きに傾けると、ヘッドトーンが強調されよく通るトーンになり、マイクを唇に近接させると鮮やかで明瞭なトーンになり、マイクを下に向けると低音の迫力が増し高域が滑らかになります。必用に応じて100Hzのハイパスフィルターを有効にし、振動や低周波によるランブルノイズを除去しレコーディングのヘッドルームを確保します。

エレキギター



高出力の迫力サウンドを特徴とするBluebird SLはエレキギターのクリーンなサウンドを見事に再現します。マイクカプセルがスピーカーのコーンの中心を狙うように設置すると高域が強調され、コーンのエッジを狙うように設置すると低域が強調された豊かなサウンドになります。必用時に応じてハイパスフィルターを有効にします。ディストーションやオーバードライブなどの歪み系のトーンは、Bluebird SLをコーンのエッジ付近に設置するか、ルームノイズが多少加わるようBluebird SLをアンプから30センチ以上遠ざけてトップエンドをソフトにします。エレキベース、ブルース・ハーモニカ、オルガン等にも最適に使用できます。

アコースティック・ギター



ラージダイアフラムのマイクロフォンでアコースティック・ギターを收音する場合、マイキングには細心の注意が必用ですが、リッチなトーンと高出力を装備するBluebird SLはアコースティック・ギターの收音に理想的です。Bluebird SLをギターのネックとボディのジョイント（12フレット-14フレット付近）の前に設置しカプセルをネックに向けると、バランスのとれたサウンドになりきらびやかなトップエンドが得られます。ギター・レコーディングの経験が浅い場合は、マイクをギターにできるだけ近付け、カプセルをサウンドホールに向けてマイクを傾けると低音が強調されピッキングノイズが軽減されます。重低音を更に効かせるには、マイクをサウンドホールに近付けます。ディテールを重視する場合は、ギターからマイクを遠ざけますが、この時、マイクの位置をネック部分か、もしくはマイクをギターの上（ギタリストの頭の上）に設置します。必用に応じて100Hzのハイパスフィルターを有効にし、振動や低周波によるランブルノイズを除去しレコーディングのヘッドルームを確保します。

弦楽器



自然な高域、ソフトな中域を持つBluebird SLは全ての擦弦楽器の収録に最適です。一般的にはマイクカプセルを楽器のブリッジの方へ向けて、共鳴音と擦弦音がミックスされたサウンドを收音します。チェロやベースは、ブリッジの前、7.5-15センチ離して設置するのが理想的です。必用に応じてハイパスフィルターを有効にします。バイオリンやビオラは楽器から30-60センチ上方に設置します。カプセルをブリッジ側に向けると擦弦音が強くなり暗めのトーンになり、糸巻き（ペグ）側に向けると明るく広がりがあり、調和のとれたサウンドになります。

ドラム



Bluebird SLのスリムなボディと高速過渡応答の特性は、ドラムの録音に最適です。ドラムキットやハンドドラムにはリムまたはフープ（ヘッドをシェルに固定している枠の部分）から5-10センチくらい上方にマイクを設置します。アタック音を強調するには、カプセルの正面をドラマーの手元またはドラムスティックに向けます。カプセルをシェルに向けるとハンドドラムのシャープなアタック音をやわらげ、またスネアの明るくきらびやかなバズ音を拾います。必用に応じてハイパスフィルターや20dBの減衰パッドを有効にします。ドラムにマイクを近付けると、低音とシェルのレゾナンスが強調され、その他の音源からの距離感が増しますが、更に距離を広げると、ドラムが周囲に溶け込んで空気感と一体感のあるサウンドになります。

サクソ、フルートなどの木管楽器



ソプラノ・サクソ、クラリネット、オーボエなどの收音には、Bluebird SLをボディの中心部分から一番下のパッドとの間にあるキーの正面で真上に設置します。必用に応じてハイパスフィルターを有効にします。Bluebird SLを楽器のボディに沿って上下に移動させて、バランスを調整しますが、マイクがマウスピースに近付くほど空気感のある高域が得られ、反対にベル側に移動すると中域が強調されます。フルートでは全体の長さの中央部分の真上にBluebird SLを設置し、マイクをマウスピース側に移動させて調整します。マウスピースに近付くほど高域が強くなり、プレス音が強調されます。サクソと同種の管楽器では、ベルの終端部分の前に5-15センチ離して設置してからバランスを調整します。Bluebird SLのカプセルを上に向けマウスピースを狙うと、空気感、明瞭度、高域が増し、カプセルを床方向、下向きでは低域が強調され、管自体から出る中高域のざらつきを抑えメロウなサウンドが得られます。

抜群の対応力を持つBluebird SLは、あらゆる楽器、様々な環境で理想的な録音を実現できます。

技術仕様

- トランスデューサー・タイプ: コンデンサー、圧力傾度
- 極性パターン: カーディオイド
- 周波数特性: 20Hz-20kHz
- センシティブィティ: 28.5 mV/Pa@1kHz
(1 Pa=94 dB SPL)
- 出力インピーダンス: 50 Ohm
- 定格負荷インピーダンス: 最小1k Ohm
- 最大SPL: 138 dB SPL(1kHz、0.5%THD)
- S/N比: 82.3 dB-A
- ノイズレベル: 11.7 dB-A
- ダイナミックレンジ: 126.3 dB
- 使用電圧: +48V DC Phantom Power
- 重量: 455g
- 寸法: 222.5mm x 47.5mm
- ハイパスフィルター: 100Hz、12dB (1オクターブあたり)
- パッド: -20dB

製品の保証

Blue Microphonesは、Blue Microphones正規ディーラーにて購入されたハードウェア製品につき、正常な使用における状況下で発生した不具合に対して、製品の購入日より2年間の無償保証期間を設けております。無償保証期間内でも製品に改造や操作ミス、過度な消耗等が認められた場合や、Blue Microphonesが認定したサービスセンター以外の場所でサービスを受けたものに関しては、保証外となりますのでご注意ください。本保証には、事前に合意がない限りサービスを受けるための運送費や交通費は含まれません。Blue Microphonesは製品改良のため、予告なく製品の仕様や外観を変更する権利を有します。また製品仕様に変更が行われた場合、変更前に製造された製品に対して、これらの変更を反映/適用する義務を負いません。製品の保証や免責事項に関しては、Blue Microphones (米国 +1-818-879-5200) までお問い合わせください。Baltic Latvian Universal Electronics (BLUE) では、製品改良のため製品の仕様及び外観は予告なく変更することがあります。



www.bluedesigns.jp

© 2016 Blue Microphones. 無断複製転載を禁ず。BlueロゴはBlue Microphones, LLCの登録商標です。設計：米国 製造：中国